



病院だより 134

新年のご挨拶

美祢市病院等事業局管理者 高橋 睦夫

新年明けましておめでとうございます。

ご家族と健やかに輝かしい新年を迎えたこととお慶び致します。

昨年度の病院だよりにも記載しましたが、我が国では2020年初頭から新型コロナウイルス感染症の第1波が始まり、昨年の11月ごろより第8波に突入しています。コロナウィルスはスパイクという突起を変えて（変異）一度感染した人にも何度も感染します。また、ワクチンもコロナウィルスが変異するたびに、その変異株に効果があるワクチンを接種しなければなりません。幸いにも現在のワクチンは、色々なオミクロン変異株にも効果があることがわかっていますので、今後も是非、ワクチン接種を受けることをおすすめします。年末年始に帰省などで移動することが多く、そのため例年1月初め頃からコロナ感染者が増加します。可能な限り、旅行や人数が集まるイベントなどへの参加機会を避け、手洗い、マスク着用などの感染予防に留意することが大切と思います。

昨年の4月から、美祢市立病院に「総合診療医」が2名、常勤医として着任しています。

その2名の「総合診療医」は、総合診療科外来や患者さんのご自宅を訪問しての診療に精力的にあたっていますので、少しずつ「総合診療医」に関しての理解が深められつつありますが、現在も、どのような医師なのか疑問に思われる方もおられるかと思しますので、昨年に引き続き簡単に説明したいと思います。

医療の分野では、内科、外科、小児科などの診療科がありますが、今まではその科のスペシャリストは医師が所属する医療系学会が研修プログラムの設定や試験などをして認定医あるいは専門医の資格を与えていました。この制度は一般の人びとには分かりにくいし、学会によって認定医あるいは専門医の技量に差があるといわれていました。そこで、2018年4月から日本専門医機構が全ての学会の研修制度を策定し、その研修が終了した後、新専門医試験を実施して認定医や専門医を一括して「新専門医」として認定・登録することになりました。その中には内科、外科などを含めて19の診療科（基本領域）があり、「総合診療医」がその中の1つの診療科に含まれることになりました。

それでは「総合診療医」とは具体的にはどんな医者なのでしょう？一言でいえば「幅広い視野で患者と地域を診る医師」といえます。つまり、色々な病気（高血圧、心臓病、肺炎、腎臓病、糖尿病、癌、神経病など）を診断・治療するオールマイティな医師で、地域にあっては予防・介護などの色々な職種の人をつなぐ中心的な役割を担う医師です。このような医師は美祢市にとって、活躍を期待される医師ではないでしょうか。

今年こそ新型コロナウイルス感染症がある程度収束し、コロナ前のように旅行やイベントなどに安心して自由に参加できるようになって欲しいものです。